

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600091		
法人名	社会福祉法人 花の村		
事業所名	グループホーム 合歓の丘		
所在地	島根県江津市後地町2935番地4		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果市町村受理日	平成30年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成30年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内にはGゴルフが行える多目的広場があり、地域交流の拠点としての機能も兼ね備えています。同法人の認定こども園も側にあり行事への参加、見学可能です。定期的に園児も遊びに来てくれる等交流を持たせてもらっている。また、敷地の空きスペースを活用した花壇、畑を利用者さんと一緒に作り、さまざまな四季折々の花や野菜など栽培することで、外出、体を動かす機会、運動の量を多くとれるよう、職員一同意識して対応しています。また、今年も視察研修を継続し、ミーティング開催時にも、各自それぞれを持ち寄り学習の機会を設け研修にも力を入れています。そして、グループホーム合歓の丘では温泉入浴も可能で、利用者さんにとっても喜んでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は特に「出かける機会を多く持つことと積極的に体を動かすこと」に力を入れて取り組んでいる。職員は自らが楽しんでケアを行い、いろいろなきっかけや場面を作り利用者の主体的な生活を引き出している。手作りの釜戸で御飯を炊いたり焼き芋を作ったり野菜を作ったりする中で、利用者は生き生きと「こうするんだよ」と教えてくれたり、体調への不安や訴えが減り落ち着いて生活している。職員は事業所の役割を理解し、積極的にオムツはずしに取り組むなど利用者への思いを一つにしてチームとして支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回あるミーティングの際、事業理念の唱和を必ず行っている。理念については職員間でも共有し、それに基づいた行動を意識し、介護の現場に結び付けている。	日々の実践が理念に沿ったものとなるよう意識して取り組み、毎月ミーティングの時に唱和し確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々、買物や散歩、受診、ドライブ等利用者さんと一緒に出かけ、様々な地域の催しへも参加している。その都度交流することは継続できているがもう少し機会を増やせればと思う。	地域の祭りなどの催し物、買い物や散歩、受診など、利用者が地域に出かけ交流できるよう積極的に支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援の方法は様々な出かけた際、地域の方に理解していただける様意識しながら支援している。キャラバンメイトの活動も継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者やサービスの取り組み等の状況について報告や話し合いを行い、そこでいただいたご意見をサービス向上に活かしている。	利用者の状況や活動、行事予定などを報告し意見交換をしている。委員から情報提供を受け活動につなげたり、委員が利用者と折り紙で箸置きを作るなど協力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、情報の交換、共有も出来ており、必要な時は随時連絡を取らせてもらっている。月1回市町村担当者の方にもお便りを届けている。	運営推進会議や、毎月たよりを届けて状況を伝えている。必要時にはその都度連絡をとり協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議内でも毎回議題にあげて検討する時間も設けている。またミーティングの際にも職員全員で学習機会を設け意識の向上に取り組んでいる。	法人として人権の研修を行い学ぶ機会を作っている。ミーティングの中でも身体拘束について話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの際にも職員全員で学習機会を設け意識の向上にも努めている。また、定期的な研修もあり参加しており権利擁護推進委員養成研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、関心をもってもらえるよう意識している。制度は理解しており必要性の生じた場合は活動できる体制は整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除、改定の際は利用者・家族に丁寧な説明を心がけ理解と納得を得てもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会としては運営推進会議や外部評価を想定しているが、面会時や家族会でのご意見や要望も反映できるようにしており、運営推進会議の議事録も閲覧できるよう玄関先に設置している。	運営推進会議や、家族会、日常的に家族の訪問時などに意見を聞くことに努めている。家族会は内容を工夫して行い昼食を共にし交流を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや、随時業務の中で意見や提案をもらい、法人全体のリーダー会議等でも提案、反映出来る仕組みがあり活用している。	会議や日常の業務の中で意見の把握に努めている。管理者、職員は何でも話し合えるように互いに認め合い協力関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが意欲的に働けるよう職場環境、条件の整備に努めており、処遇の改善もおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会も設置されており、法人内の研修を受ける機会も確保されている。また職員に育ってもらえるよう日々の業務の中で意識しながら取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は少ないが、視察研修を通じて交流、意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等には丁寧に耳を傾け、面談、見学の際においても場所、時間を含め、自分のことも話し安心してもらえるよう信頼関係づくりに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安なこと、要望等にも丁寧に耳を傾けることで家族の安心確保に努めている。面談、見学の際も場所時間などに配慮している。出来ていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時まず必要としている支援を見極めている。GHは制限等もあるが他のサービスも含めた対応に努め、ご意見、ご要望を伺いながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必ず何か行う際は一緒に行動し、役割を持っていただけるよう支援している。暮らしを共にする者同士家人として考える様にしている。関係も築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子をお伝えしたり、ご本人さんからも電話の出来る環境も整っている。面会、家族会などの機会も大切に、絆を大切にしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ地域の方が、併設の小規模多機能施設へ来られた際は、行き来して交流を持ってもらっている。電話や訪問も行い、関係が途切れない様支援に努めている。	受診や地域の行事などで馴染みの人に出会ったり、法人の他施設利用者との行き来、外泊など、これまでの関係を大事にしている。他施設にいる配偶者と毎日ひとときを過ごす人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりの時間と共有する時間とに配慮しながら利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立しないよう、また、トラブルに繋がらないよう間に入り、利用者同士が関わり合いが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には必ずその旨お伝えしている。必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。実際訪問していただいた家族さんもあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分がその立場なら、親がその立場ならと常に考え、決して無理強いせず、表情にも気をつけ本人らしい生活が出来るように支援している。	常に利用者と生活を共にしてその中で聞いた言葉や、外出場面での行動、利用者が一人の時や複数人の時の言葉の違いなどから心理的な面の把握もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回時だけでなく、面会時などにも情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かする時でも出来るだけ見守るようにして観察し小さな変化にも気付けるよう日々の観察を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に情報が共有出来る様、職員全員ではないが、随時口頭での話し合いは出来ており、日々の生活の支援、介護計画作成の際に活かしている。	家族や職員から情報を得て利用者自らが自発的に活動し、プライドを持って生活できるように介護計画を作成し定期的に評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づき等、日誌や個人記録、連絡ノートへ記入し情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれないように、様々な角度からのアプローチを心がけ、常に新しい考え方を取り入れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の能力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう地域資源の活用も意識しながら支援にあたっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と常に連携をとり、本人・家族とも話し合いながら適切な医療が受けられるよう支援している。	希望のかかりつけ医を受診し、訪問診療の人と受診の人がいる。医師と連携して支援し、家族に状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携はとれており、適正な受診や看護を受けられる体制は整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、主にMSWとの情報交換や相談は出来ている。あわせて出来るだけ早期に退院できるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族等と話し合い、事業所で出来る事を十分説明しながら方針を共有し、チームでの支援も出来ている。	利用時に事業所の方針を説明して家族の意向を聞いている。医師や家族の協力があり医療的なケアがなければ看取りの体制をとる考えがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の方法等、年1回は研修があり、それ以外にも機会があれば研修にも参加するよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は定期的に避難訓練を行っており、地域との協力体制も整っている。今後も協力体制、訓練を続けて行く。	定期的に火災訓練を行っている。地域の人にも事前に呼びかけて見学してもらい、職員とは違う視点での助言を受け参考になった。10月末には法人として地震体験車での訓練を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修もだが、トイレなどは同性対応に努めたり、その都度表情仕草などに配慮しながら一人ひとりに合わせた言葉かけに努めている。	内部研修をや外部研修に参加し意識して取り組んでいる。トイレへの声かけや声の大きさ、カーテンの使用など、羞恥心に配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープン、クローズの質問を使い分け、出来るだけ自己決定が出来る様勤めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度希望は聞き、希望に沿って支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服も一緒に選ぶようにしている。出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ごとに一緒に準備しており、好みや力も活かしている。	旬の食材を使用し季節感のある食事作りをしている。日々の食事作りやふきの皮むき、シソ穂とり、焼き芋、吊るし柿作りなど、多様な場面を作り利用者の力を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の意見も取り入れ一人ひとりの状態や力量、習慣に応じた支援に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否等ある方、場合もあるが概ね出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者本人にもその旨お話しし、職員間で排泄パターン等共有している。自立に向けた支援は出来ている。新たに紙パンツから布パンツに移行出来る様実践している。	日中のオムツはずしに取り組んでいる人もあり、全職員が支援の内容を理解して対応している。トイレの取っ手や便座の位置がわかるように自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の量、水分摂取に努め、出来るだけ自然排便を促している。食事内容にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	シャワー浴は何時でも出来る様にしている。温泉入浴については使用時間帯が決まっているが、希望はその都度聞き、個々に沿った支援を行う様努めているが夕方夜の時間帯は出来ていない。	温泉と小規模多機能型事業所と共同で使う広い浴室があり、希望や状態を見ながら支援している。脱衣場に幅広の台を置き安楽に入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝日にあたってもらったり、日中は運動や散歩を意識して過ごしていただくよう配慮している。排泄のタイミング、喉の渇き等も注意してよく眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクター(薬剤師含む)との連携もとれており、薬の効能などの学習会も適宜行っている。また、薬の効能など個別にファイルに綴じ、すぐ確認共有できる状態にしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、花壇の世話、畑作業、料理、工作、頭の体操など一人ひとりに合った役割、楽しみ、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新しい刺激を大切にして気軽に出かけて頂けるよう努めている。自発的に希望もおっしゃられ支援している。外泊もされるなど家族の協力も得られている。	散歩やドライブ、名所などに出かけている。利用者からドライブの希望が出ることもあり支援している。自然に恵まれた立地条件があり、焼き芋や野菜作り、釜戸での御飯焚きなど楽しみながら外気に触れる機会を多く作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理そのものは職員で行っているが、一人ひとり要望があれば自由に使い、買物にも一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特にトイレは同じトイレを職員も使うようにして快適かどうか確認している。(温度、湿度、臭いなど)また、さまざまな場所に季節の花を生けたりと季節感を感じて頂けるようにもしている。	季節感や生活感があり、思い思いに過ごすことができるように配慮している。トイレや浴室も利用者が使いやすいように環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーが設けてある。また、冬場にはこたつを出し、スペースを新たに作ったりと工夫もその都度行っているが、まだまだこれについては課題と考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人家族と相談しながら作っている。一人ひとり本人が居心地よく過ごせるように対応している。	写真や自宅で使っていたタンス、鉢物の花に水遣りができるようにするなど、家族とレイアウトを話しながらその人に合わせた環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を活かした上で、安全にも配慮しながら工夫して支援している。例えば目の見えにくい方には触感でわかる様かざりをつけたりしている。		